

## 【参考資料】

### 県立博物館における新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染症の流行拡大に対応し、令和2年度から当館ではさまざまな感染拡大防止策を講じてきた。令和3年度もまた、岩手緊急事態宣言（令和3年8月12日～9月16日、令和4年1月23日～3月31日現在継続中）と感染症の拡大状況に応じて下記の対応を行った。

#### 〈臨時休館〉

令和3年8月12日の岩手緊急事態宣言発出により「県施設の原則休館・利用制限等」「県主催イベントの原則禁止・利用制限等」の指針が示されたため、令和3年8月16日から9月17日まで臨時休館とした。ただし、臨時休館中に予定していた館園実習は一部カリキュラムを変更し受け入れを行った。

#### 〈入館者への対応〉

博物館入口（総合受付前）での手指消毒、サーモグラフィーによる検温とマスクの着用及び連絡先の提出をお願いした。

#### 〈各種展示室での対応〉

総合展示室や特別展示室の入口、ハンズオン展示（イヌワシのたまご）設置箇所や地形模型付近に手指消毒用アルコールを設置した。

来館者が直接触れるような場所（タッチパネルやタブレット、ボタン型スイッチ、ハンズオンなど）は解説員が随時消毒を行った。

毎週土曜日に実施していた解説員による定時解説は令和2年7月から休止とした。ただし、一般来館者への対応（質問や依頼解説）は「1人の来館者に対し1人の解説員が対応できる時間を10分程度」に制限し適宜実施した。

団体の受け入れは上限100名、解説員による団体解説付きの見学は上限を30名程度までとし、30分以内の解説時間と定めた。

感染状況が低水準に抑制されつつあった令和3年12月1日から団体解説付きの見学や一般来館者への対応に係る時間制限を解除したが、令和4年1月23日の岩手緊急事態宣言発出を受けて従前の形に戻した。

#### 〈体験学習室の対応〉

一度に利用できる人数を大人子ども合わせて15名程度に制限し、団体での利用は不可とした。

令和2年度から土日祝日と県内小中学校の長期休業期間中に限り閉室としていたが、感染状況が低水準に抑制されつつあった令和3年11月には土曜の開室を、12月には日祝日の開室も再開した。しかし、令和4年1月23日に岩手緊急事態宣言が発出されたことにより、再び平日のみの開室に戻した。

令和2年度にハンズオン資料の一部を撤収し消毒作業の徹底を図ったが、令和3年度も取り組みを継続した。主な消毒方法として、おもちゃ等はアルコール、身につけるコーナーの布製品は除菌剤を用いた。

### 〈映像室の対応〉

令和2年度から定員の上限を20名（収容人数50名）とし、換気と消毒作業のため1日3回（10:10、13:10、15:10）の定時上映とした。感染が抑制されてきた11月には1日5回に上映を増やしたが、翌年1月の岩手緊急事態宣言を機に3回上映に戻した。

### 〈その他の施設利用について〉

受付およびミュージアムショップカウンター、サービスコーナーに透明シートまたはアクリル板を設置した。

館内の来館者が直接触れるような場所（記念スタンプコーナー、連絡先記入用机など）は随時消毒を行った。また、貸し出し用の車椅子やベビーカー、手押し車、老眼鏡、VR、視聴用器具、筆記具、クリップボードなども使用後に消毒を行った。

各階トイレ前などに手指用アルコールを設置し、常時利用できるようにした。

喫茶「ひだまり」では、手指消毒用アルコール設置をはじめ、机の配置の変更やアクリル板の設置などを行った。

### 〈展覧会〉

岩手緊急事態宣言発出に伴う臨時休館により、開館40周年記念特別展の終了日を1週間繰り上げた。また、8月21日に予定していた展示解説会と8月22日の関連講演会（県博日曜講座を兼ねる）を中止とした。

### 〈イベント〉

岩手県文化振興事業団自主事業として計画していた下記の集客イベントを中止した。

- ・5月2日、3日 ゴールデンウィークスペシャルイベント
- ・10月11日 博物館まつり
- ・10月24日 ヒストリックカー&クラシックカーミーティング in 岩手県立博物館

博物館まつりは9月中旬に開催困難と判断し中止を決定。代替事業として屋外で実施する小規模イベントを行うこととし、博物館近隣の教育機関に限定して広報した。

また、岩手緊急事態宣言発出に伴う臨時休館中には予定していた下記のイベントを中止した。

- ・8月21日 開館40周年記念特別展展示解説会
- ・8月21日～22日 チャレンジ！はくぶつかん
- ・8月22日、9月12日 県博日曜講座
- ・8月15日、22日、29日 たいけん教室～みんなのためそう～

県内小中学校の長期休業中に予定していた子供向け定時解説「ワクワク！こどもツアー」は、感染拡大が抑制されつつあった冬期をのぞき中止した。夏期は早くから中止を決定したため、代替えとして開館40周年記念特別展ワークシートの配布を行った。春期は直前まで実施する予定であったが、児童生徒の感染が拡大していたため中止した。

当館講堂（収容人数140名）で開催する講演会や鑑賞会は定員の上限を50名程度とした。特に混雑が予想された文化講演会とコンサートに関しては事前申込による参加受付とした。当日受付の回は、参加者へ連絡先の提出をお願いした。

狭小な展示室などで実施するイベント（展覧会展示解説会、県博バックヤードツアー、ワクワク！こどもツアー、ナイトミュージアム）も厳しく人数制限を行い、密な環境とならないように人員整理要員を配し参加者の誘導を行った。

現地見学会（考古学セミナー、自然観察会、地質観察会）は前年度と同様に感染状況を見ながら限定的に広報し、募集人数も例年より減らすなどの措置を講じて実施した。

また、たいけん教室及び冬のワクワク！ワークショップも前年度と同様に人数制限を行い実施した。特に、コロナ禍以前のたいけん教室は毎回 50 名前後（子ども 20～30 名と付き添いの保護者）が参加していたが、感染リスク軽減のため定員を 5～10 名に減じた。また、会場にアクリル板を設置したり、参加者ごとに消毒液を配布したりした。プログラム内容も指導を担当する解説員と参加者が適切な距離を保てるように見直しを行った。

上記のように、種々の感染拡大防止策を講じながら事業の運営にあたり、幸いにも当館の利用に起因する入館者・利用者の感染はこれまで報告されていないが、新型コロナウイルス感染症に対する効果的な感染防止策と博物館事業実施の両立を図るべく検討を重ねているところである。